

〔書言字考節用集二時候〕オククラシ昧也莫也明之時選 黎明 行黒 庵不明也

〔倭訓栞中編二二十三〕ほのくらし 明ぼの、うすぐらき時をいふ、日本紀に凌晨、昧旦などを訓せり。

〔日本書紀九〕十四年十月己酉、百濟王子餘昌略 註 悉發國中兵向高麗國中 餘昌中 凌晨起見

曠野之中、覆如青山、旌旗充滿。

〔日本書紀二十五〕大化元年八月庚子、是日、設鍾匱於朝、詔曰中 其收牒者ホククラキ昧旦ホク執牒奏於內裏、

〔源氏物語六末摘花〕まだほのぐらけれど、ゆきの光に、いとゞきよらにわかうみえ給ふを、老人どもゑみさかえてみ奉る、

〔書言字考節用集二時候〕アケグレ昧也爽也明也暗也相也雜也、爽 昧旦毛詩註天欲明、昧 遲明漢書

〔倭訓栞前編二〕あけぐれ 文選に昧爽をよめり、あけやみともいふ、夜の明んとして一しきり暗くなる時なり、

〔萬葉集四相聞〕丹比真人笠麻呂下筑紫國時作歌一首并短歌

吾妹ワキモ兒コ爾ニ戀コヒ乍ツ居レ者バ明アケ晚グレ乃ノ旦アサ霧キリ隱カク鳴ナク多タ頭ツ乃ノ哭ナク耳ミ之シ所ナ哭カク略下

〔源氏物語四〕四十七あけぐれのほど、あやにくにきりわたりて、空のけはひひや、かなるに、月はき

りにへだてられて、木のまともくらくなまめきたり、山里の哀なる有様思出給

〔書言字考節用集二時候〕旦アサ末マキ 朝速同

〔倭訓栞前編二〕二十九まだき 未しき也略 中朝まだき起てといふも、おくべき時分のまだいたらぬ也、

〔拾遺和歌集一春〕題まらす 兵部卿元良親王

あさまだきおきてぞみつる梅花夜のまの風のうしろめたさに